

## 2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年1月30日

上場会社名 株式会社 日清製粉グループ本社 上場取引所 東  
 コード番号 2002 URL <https://www.nisshin.com>  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 見目 信樹  
 問合せ先責任者 (役職名) 総務本部広報部長 (氏名) 安達 令子 TEL 03-5282-6650  
 四半期報告書提出予定日 2020年2月5日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	536,666	25.0	23,909	5.4	26,221	△3.3	19,951	10.1
2019年3月期第3四半期	429,472	6.7	22,681	3.7	27,126	4.3	18,117	0.2

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 21,278百万円 (13.1%) 2019年3月期第3四半期 18,818百万円 (△34.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	67.14	67.09
2019年3月期第3四半期	61.00	60.94

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	709,563	428,922	58.4
2019年3月期	594,754	418,848	67.9

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 414,304百万円 2019年3月期 403,937百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	16.00	—	16.00	32.00
2020年3月期	—	17.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	715,000	26.5	29,500	9.6	31,000	△3.3	22,000	△1.2	74.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

新規 8社（社名） PFG Topco1 Pty Ltd.  
Allied Pinnacle Pty Ltd. 他6社 、 除外 1社（社名）

(注) 詳細は、【添付資料】P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、【添付資料】P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	304,357,891株	2019年3月期	304,357,891株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	7,112,475株	2019年3月期	7,234,479株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	297,163,860株	2019年3月期3Q	296,989,462株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。業績予想の前提条件その他の関連する事項については、【添付資料】P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2) 決算補足説明資料につきましては、当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

## [当第3四半期の概況]

当第3四半期連結累計期間につきましては、雇用・所得環境は堅調である一方で、米中貿易摩擦をはじめとした不安定な国際情勢や原油価格の上昇、消費税率引上げの消費マインドへの影響等により、景気は先行き不透明な状況が継続しました。

このような中、当社グループは、中期経営計画「NNI-120 II」の最終年度である2020年度を通過点として、未来へのコンパス（羅針盤）である長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」で描く姿の実現に向け、今後の更なる成長のための基盤づくりを着実に実行しております。その一環として、昨年4月に、豪州全土で小麦粉関連の事業を展開するAllied Pinnacle Pty Ltd.の買収を実施し、同7月に、総合中食サプライヤーであるトオカツフーズ株式会社を連結子会社化しました。その一方で、本年3月に連結子会社である日清ペットフード株式会社の事業をペットライン株式会社に譲渡することを決定しました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高はAllied Pinnacle Pty Ltd.及びトオカツフーズ株式会社の新規連結効果により、5,366億66百万円（前年同期比125.0%）となりました。利益面では、米国製粉事業における販売競争の激化、Allied Pinnacle Pty Ltd.及びトオカツフーズ株式会社の統合関連費用を含む戦略コストの増加があったものの、トオカツフーズ株式会社の新規連結効果に加え、医薬品原薬の出荷好調やエンジニアリング事業の工事進捗の前倒し等により、営業利益は前年を上回り239億9百万円（前年同期比105.4%）、一方、経常利益はAllied Pinnacle Pty Ltd.における利息の負担により前年を下回り262億21百万円（前年同期比96.7%）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、第2四半期に米国製粉事業の一時的な業績悪化を保守的に捉えた減損損失、また、トオカツフーズ株式会社の連結子会社化に伴う段階取得に係る差益を計上したことにより、199億51百万円（前年同期比110.1%）と前年を上回りました。

(前年同期比較)

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	429,472	536,666	107,193	125.0%
営業利益	22,681	23,909	1,227	105.4%
経常利益	27,126	26,221	△904	96.7%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	18,117	19,951	1,833	110.1%

## [セグメント別営業概況]

## ①製粉事業

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	185,043	232,575	47,532	125.7%
営業利益	8,019	7,510	△509	93.6%

国内製粉事業につきましては、積極的な拡販施策を実施し新規顧客の獲得を進めましたが、厳しい市場環境の中、業務用小麦粉の出荷は前年を下回りました。また、昨年4月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均で1.7%、10月に同8.7%引き下げられたことを受け、それぞれ昨年7月及び本年1月に業務用小麦粉の価格改定を実施しました。

副製品であるふすまにつきましては、価格は堅調に推移しました。

海外製粉事業につきましては、Allied Pinnacle Pty Ltd.の新規連結効果等により売上は前年を大幅に上回りました。販売環境の厳しい米国製粉事業においては、米国及びカナダの主力工場の生産能力増強が完了したことを踏まえ、これまで北米の需給調整機能を担ってきたミネソタ州のニューブラーク工場を昨年12月に閉鎖しました。これにより経営資源を成長地域に集中し、更なる事業基盤の強化を図ることとしました。

この結果、製粉事業の売上高は、2,325億75百万円（前年同期比125.7%）となりました。営業利益は、前年に発生した買収関連費用の影響や国内ふすま価格の堅調な推移があったものの、米国での販売競争による業績悪化等により、75億10百万円（前年同期比93.6%）となりました。

## ②食品事業

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	162,947	163,591	644	100.4%
営業利益	10,380	9,961	△419	96.0%

加工食品事業につきましては、消費者の節約志向が継続する中、家庭用では、「簡便」「本格」「健康」をキーワードとした高付加価値製品の開発を進めたほか、青の洞窟イルミネーションイベント協賛をはじめとした広告宣伝活動等、消費を喚起する施策を実施しました。業務用では、顧客ニーズに合わせた新製品の投入、新規顧客獲得に向けた提案活動を実施しました。これらの施策により、家庭用小麦粉等の出荷減はあったものの、高付加価値製品を中心にパスタ・パスタソース等の出荷が好調に推移し、加工食品事業の売上げは前年並みとなりました。なお、昨年10月の輸入小麦の政府売渡価格改定に伴う業務用小麦粉の価格改定等により、家庭用小麦粉の価格改定を本年2月に実施いたします。また海外事業につきましては、ベトナムのVietnam Nisshin Technomic Co., Ltd.において、本年1月に業務用プレミックスの新工場が稼働を開始しました。

酵母・バイオ事業につきましては、イーストの出荷は前年並みに推移しましたが、その他の製パン用素材の出荷減により、売上げは前年を下回りました。なお、インドの子会社であるOriental Yeast India Pvt. Ltd.では、本年夏頃の完工予定でイースト工場建設工事が順調に進捗しております。

健康食品事業につきましては、医薬品原薬及び消費者向け製品の出荷増により、売上げは前年を上回りました。

この結果、食品事業の売上高は1,635億91百万円（前年同期比100.4%）となりました。営業利益は、健康食品事業等の増収効果はあったものの、酵母・バイオ事業におけるインドイースト工場立ち上げ費用、その他広告宣伝費等の戦略コスト及び物流費の増加等により、99億61百万円（前年同期比96.0%）となりました。

## ③中食・惣菜事業

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	34,742	94,378	59,635	271.7%
営業利益	925	2,145	1,219	231.8%

中食・惣菜事業につきましては、夏場の天候不順により調理麺の販売が低調に推移したものの、トオカツフーズ株式会社の新規連結効果により、売上げは前年を大幅に上回りました。

この結果、中食・惣菜事業の売上高は、943億78百万円（前年同期比271.7%）、営業利益は、21億45百万円（前年同期比231.8%）となりました。

## ④その他事業

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	46,738	46,120	△618	98.7%
営業利益	3,177	4,127	950	129.9%

ペットフード事業につきましては、キャンペーンの実施等拡販に努めましたが、市場環境が厳しく、売上げは前年を下回りました。なお、本事業は、本年3月末をもってペットライン株式会社に譲渡することを決定しました。

エンジニアリング事業につきましては、売上げは前年並みとなりました。

メッシュクロス事業につきましては、スクリーン印刷用資材等の出荷減により、売上げは前年を下回りました。

この結果、その他事業の売上高は、461億20百万円（前年同期比98.7%）となりましたが、営業利益は、エンジニアリング事業の工事が前倒しで進捗したこと等により、41億27百万円（前年同期比129.9%）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(単位：百万円)

	2019年3月期	2019年12月期	前期末差
流動資産	268,170	255,942	△12,227
固定資産	326,583	453,620	127,036
資産合計	594,754	709,563	114,808
流動負債	114,806	144,555	29,749
固定負債	61,098	136,084	74,985
負債合計	175,905	280,640	104,734
純資産合計	418,848	428,922	10,074
負債純資産合計	594,754	709,563	114,808

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況及び分析は以下のとおりです。

流動資産は2,559億42百万円で、Allied Pinnacle Pty Ltd. の買収による現金及び預金の減少等に伴い、前期末に比べ122億27百万円減少しました。固定資産は4,536億20百万円で、Allied Pinnacle Pty Ltd. の買収及びトオカツフーズ株式会社の連結子会社化によるリース資産やのれんの増加等に伴い、前期末に比べ1,270億36百万円増加しました。この結果、資産合計は7,095億63百万円となり、前期末に比べ1,148億8百万円増加しました。

また、流動負債は1,445億55百万円で、Allied Pinnacle Pty Ltd. 及びトオカツフーズ株式会社の連結子会社化による支払手形及び買掛金の増加等に伴い、前期末に比べ297億49百万円増加しました。固定負債は1,360億84百万円で、Allied Pinnacle Pty Ltd. の買収によるリース債務や長期借入金の増加及び社債の発行等に伴い、前期末に比べ749億85百万円増加しました。この結果、負債合計は2,806億40百万円となり、前期末に比べ1,047億34百万円増加しました。純資産合計は親会社株主に帰属する四半期純利益による増加、配当金の支出による減少、その他の包括利益累計額の増加等により、前期末に比べ100億74百万円増加し、4,289億22百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、中期経営計画「NNI-120 II」の最終年度である2020年度を通過点として、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」の実現に向けて引き続きグループ一丸となって取り組んでまいります。

米国製粉事業の販売競争による業績悪化は、販売価格是正を含めた業績回復施策により最小限にとどめるべく取り組んでおります。また、Allied Pinnacle Pty Ltd. は、想定に比べて出荷の伸び悩みや物流費の上昇がありますが、拡販施策の実施等により、収益向上に努めてまいります。さらに中食・惣菜事業及び健康食品事業の出荷増やエンジニアリング事業の工事進捗の前倒し等もあり、2020年3月期の業績見通しにつきましては、売上高は7,150億円（前期比126.5%）、営業利益は295億円（前期比109.6%）、経常利益は310億円（前期比96.7%）、親会社株主に帰属する当期純利益は220億円（前期比98.8%）と、2019年10月に公表した予想を据え置いております。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向の基準を40%以上とし連続増配により配当の上積みを図る基本方針のもと、当初の予想どおり、前期より2円増額の1株当たり年間34円を予定しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	101,974	49,898
受取手形及び売掛金	76,245	107,940
有価証券	7,336	8,155
たな卸資産	73,348	81,880
その他	9,497	8,437
貸倒引当金	△232	△369
流動資産合計	268,170	255,942
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	58,308	70,175
機械装置及び運搬具（純額）	41,393	48,657
土地	42,611	45,922
リース資産（純額）	1,011	28,013
その他（純額）	12,994	20,848
有形固定資産合計	156,317	213,617
無形固定資産		
のれん	5,016	49,030
その他	5,446	29,322
無形固定資産合計	10,462	78,353
投資その他の資産		
投資有価証券	149,659	146,435
その他	10,265	15,339
貸倒引当金	△122	△125
投資その他の資産合計	159,802	161,649
固定資産合計	326,583	453,620
資産合計	594,754	709,563

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	54,936	66,303
短期借入金	9,535	16,039
未払法人税等	5,217	3,967
未払費用	19,963	19,279
その他	25,153	38,966
流動負債合計	114,806	144,555
固定負債		
社債	—	20,000
長期借入金	6,771	18,692
リース債務	760	34,512
繰延税金負債	24,664	33,217
修繕引当金	1,464	1,244
退職給付に係る負債	21,169	21,277
その他	6,268	7,138
固定負債合計	61,098	136,084
負債合計	175,905	280,640
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,117	17,117
資本剰余金	12,882	12,630
利益剰余金	319,705	329,885
自己株式	△11,403	△11,224
株主資本合計	338,303	348,409
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	62,669	64,634
繰延ヘッジ損益	△393	79
為替換算調整勘定	4,086	1,818
退職給付に係る調整累計額	△728	△636
その他の包括利益累計額合計	65,634	65,895
新株予約権	167	144
非支配株主持分	14,743	14,473
純資産合計	418,848	428,922
負債純資産合計	594,754	709,563



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	429,472	536,666
売上原価	304,486	385,671
売上総利益	124,986	150,995
販売費及び一般管理費	102,305	127,086
営業利益	22,681	23,909
営業外収益		
受取利息	330	410
受取配当金	2,379	2,573
持分法による投資利益	1,294	1,344
その他	696	776
営業外収益合計	4,701	5,104
営業外費用		
支払利息	165	2,428
その他	91	364
営業外費用合計	257	2,792
経常利益	27,126	26,221
特別利益		
固定資産売却益	172	103
投資有価証券売却益	39	7
段階取得に係る差益	—	7,272
特別利益合計	212	7,384
特別損失		
固定資産除却損	288	402
減損損失	42	4,299
その他	—	382
特別損失合計	331	5,084
税金等調整前四半期純利益	27,006	28,521
法人税等	7,812	7,579
四半期純利益	19,194	20,941
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,077	990
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,117	19,951

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	19,194	20,941
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△721	1,987
繰延ヘッジ損益	326	469
為替換算調整勘定	25	△2,126
退職給付に係る調整額	36	102
持分法適用会社に対する持分相当額	△43	△96
その他の包括利益合計	△376	336
四半期包括利益	18,818	21,278
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,046	20,018
非支配株主に係る四半期包括利益	771	1,259

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する適用指針」第15項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、PFG Topcol Pty Ltd.を買収したため、同社及びその子会社（Allied Pinnacle Pty Ltd. 他19社）を新たに連結の範囲に含めております。

このうち、PFG Topcol Pty Ltd.、Allied Pinnacle Pty Ltd. 他6社は当社の特定子会社に該当します。

また、第2四半期連結会計期間において、当社の持分法適用会社であったトオカツフーズ株式会社の株式を追加取得したことにより、同社およびその子会社3社を新たに連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額(注3)
	製粉	食品	中食・ 惣菜	計				
売上高								
外部顧客への売上高	185,043	162,947	34,742	382,734	46,738	429,472	—	429,472
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,385	321	2,678	15,385	2,234	17,619	△17,619	—
計	197,429	163,269	37,421	398,119	48,972	447,092	△17,619	429,472
セグメント利益	8,019	10,380	925	19,325	3,177	22,503	178	22,681

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ペットフード、エンジニアリング、メッシュクロス、荷役・保管事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額(注3)
	製粉	食品	中食・ 惣菜	計				
売上高								
外部顧客への売上高	232,575	163,591	94,378	490,545	46,120	536,666	—	536,666
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,621	1,070	3,648	17,340	1,646	18,987	△18,987	—
計	245,197	164,662	98,026	507,886	47,767	555,654	△18,987	536,666
セグメント利益	7,510	9,961	2,145	19,616	4,127	23,744	164	23,909

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ペットフード、エンジニアリング、メッシュクロス、荷役・保管事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントの変更等に関する事項

第2四半期連結会計期間より、従来「食品事業」に含まれていた「中食・惣菜事業」について、トオカツフーズ株式会社を連結子会社化したことにより量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

## 3 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、PFG Topcol Pty Ltd.を買収したため、同社及びその子会社(Allied Pinnacle Pty Ltd. 他19社)を新たに連結の範囲に含めております。それにより、連結の範囲に含めない場合と比べ、「製粉」のセグメント資産が122,502百万円増加しております。

また、第2四半期連結会計期間において、トオカツフーズ株式会社を連結子会社化したため、同社及びその子会社3社を新たに連結の範囲に含めております。それにより、連結の範囲に含めない場合と比べ、「中食・惣菜」のセグメント資産が66,881百万円増加しております。

## 4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「製粉」セグメントにおいて、米国製粉事業に係るのれん等について、販売競争激化により業績が悪化している状況を総合的に勘案し、米国会計基準に基づき減損テストを実施した結果、帳簿価額を公正価値まで減額し、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、3,857百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、PFG Topcol Pty Ltd.を買収したこと及び米国製粉事業に係るのれんの減損損失を計上したことにより、「製粉」セグメントにおけるのれんが33,653百万円増加しております。

また、第2四半期連結会計期間において、トオカツフーズ株式会社を連結子会社化したことにより、「中食・惣菜」セグメントにおけるのれんが11,218百万円増加しております。